Now

TOKUYA TIMES

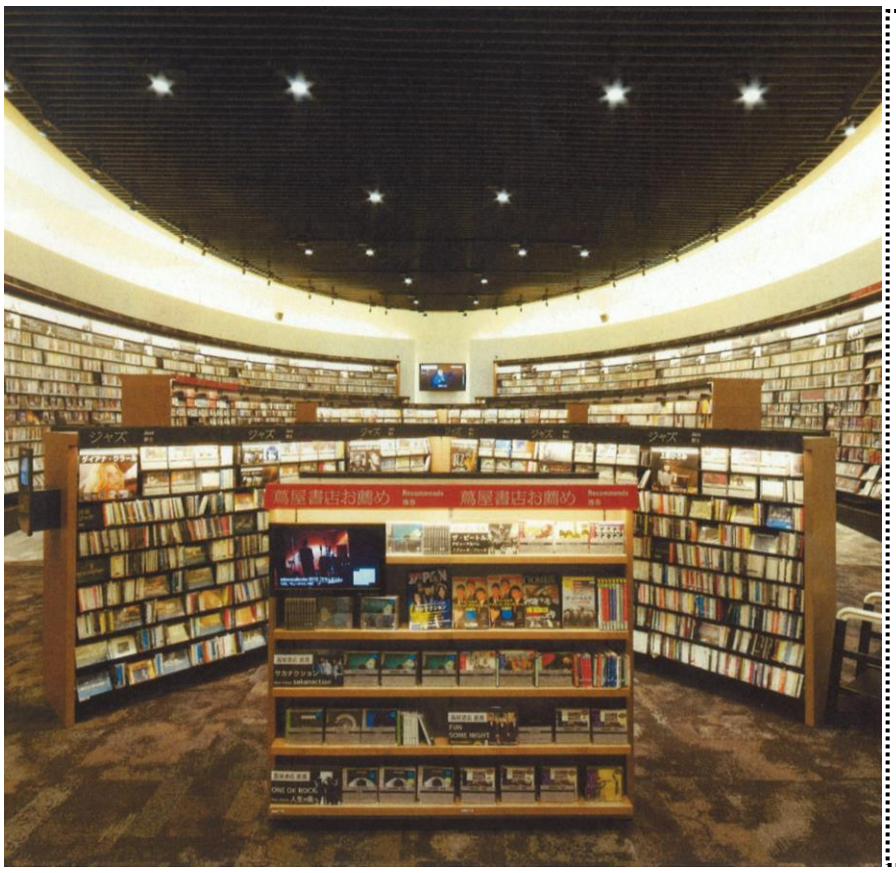
とくや タイムズ

自由民主党 豊橋市議団

http://ito-tokuya.com/tokuya　伊藤　とくや　Spring, 2014, **vol.28**

ワクワクする図書館

まちなか図書館という都心の「装置(ツボ)」



28号発行についてのご挨拶

今回のテーマは

－ ワクワクする図書館を考える です。 －

■世界における２１世紀前半の課題に「都市への人口集中問題」がありますが、それはわが国においても同様で、東京一極集中問題、大阪、名古屋圏集中問題であり、地方(都市)の消滅ですが、わがまち「豊橋」は周辺の東三河市町村とともに地域の魅力を高め合うことで持続する都市を目指さねばなりません。

■それでは、持続する都市を目指して行政は何をすべきなのでしょうか？

◆そのひとつは『公共空間の整備』です。行政は「都市を再生する」ことをモットーに、日々新たに公共空間を整備しなければなりません。

◆何故なら公共空間は都市が内側に抱えている社会への直接的なプレゼンテーション(表現・提示・紹介)だからです。

◆また公共空間は社会の価値や現実を明らかにする装置だからです。

◆さらに公共空間を再生させるためには、デザイン、スケール、アイデアなどに心血を注いで**「One and Only(唯一的)なもの」**にする必要があります。

－ 今、注目の『武雄市図書館』 －

佐賀県武雄市(人口５万人)樋渡(ひわたし)市長は、これまでもフェイスブック課の創設や赤字で苦しむ自治体病院の民営化などで話題と議論を巻き起こした市長です。私は平成 24 年に樋渡市長の『力強い地域をつくる新たな発想と市民力』と題した講演を聞くとともにお話しをする機会を得たことがありますが、その市長による武雄市再生の３本目の矢が「武雄市図書館」のリニューアルです。

■図書館と書店とカフェという３つの要素が一体となったコンセプトに基づく世界初の試み（図書館と書店とカフェはエリアとしては分けてはいるが、柵や壁で仕切られてはなく、新刊本を見ていたらいつの間にか図書館へ！※注①）と、地方において極めてモダンな都会的なセンスをとり言えるデザイン性であり、それ以上に言葉はいささか悪いかもしれないが人口５万人佐賀県のド田舎にカフェはスターバックスコーヒー(以下スタバ)、書店は代官山蔦谷書店をコピーし、さらに運営をサービス業のＣＣＣ(カルチャーコンビニエンスクラブ・代官山蔦谷書店)に委ねるという**極めて洒落の利いた官民協働**である。

■公共図書館から公設民営の「**ＢＯＯＫ　ＣＡＦＥ**」へ 2013 年 4 月リニューアルオープン。【フロアー面積　3803.12 ㎡】

■図書館の開館時間を延長【朝９時～夜９時まで／年中無休にて開館】

■貸出対象を日本全国に拡大、借りた本は宅配便で返却できる【有料】

※注①　アメリカでは図書館もしくは本屋にコーヒースタンドを併設する例はあるが、３つの機能が一緒になっている例は見当たらない。

－ 樋渡市長の「ねらい」と「おもい」 －

■自宅と仕事場、その延長のサードプレイス（第３の場所）的なところとして、もっと居たい、居心地の良い、今までと違った心地良さを持つ図書館を目指す。

■開館時間の延長による、図書館に住まうというかたちを創出し、近い将来図書館の近くに国内外のイノベーター―が暮らす住居をつくって、図書館を「知」の集合点にしたい。

■これまで日本の行政はぶつかるまいと臆病な運転に終始して、住民側から飽きられ距離ができて結果的に住民不在の施設になったと思う。

❤ スピードこそが最高の付加価値。疾駆感が行政を回す！

❤ 気持ち良さをデザインする。新しい行政はそこまで赴く！

❤ 常識を打ち破ることが、市民価値の創造に繋がる！

❤ 個人を突き詰めたその先にこそ、公共へ続く道のりが見えてくる！

武雄市の図書館効果

■住民意識の変化 「武雄は何もないまち」から、「武雄は世界に誇る図書館のあるまち」へ。【シビック・プライドの醸成】

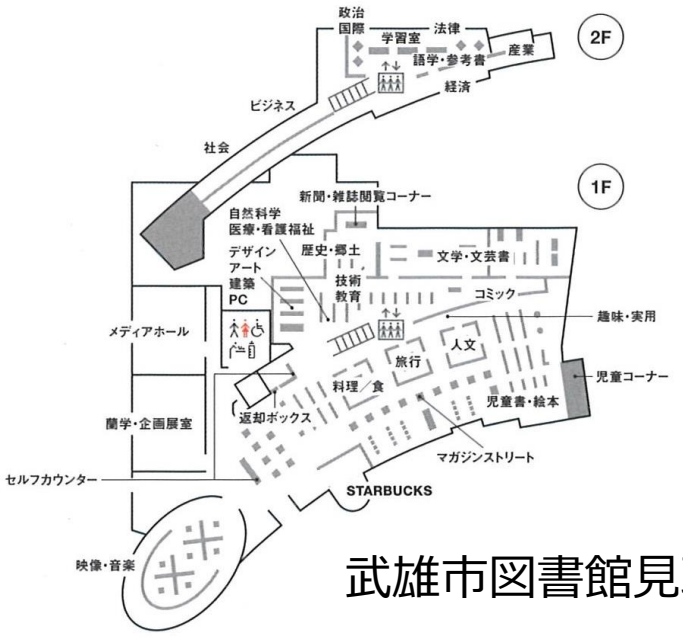
■「新しい図書館のロールモデル(手本例)」【シティープロモーション】

反対の声

■2000 年にオープンしたばかりの武雄市図書館からの改修への反対論。

■議会の承認を得ずに指定管理者発表をするなど進め方が強引。

■日本図書館協会は「指定管理者制度導入の理由やの手続き」「安定的な労働環境」「個人情報の取扱い」などの６項目に疑問・懸念を表明。



武雄市図書館見取り図

― 人口５万人、待ったなしの地方都市の苦悩もある！ ―

■持続する都市としての可能性は日に日に低くなっている。(人口減少)
■都市の再生は「One and Only(唯一的なもの)」であるが故に早い者勝ち。
■武雄市は近現代図書館史の一つのターニングポイントをつくることで生き残りをかけた。

― コンセプトワーク、武雄市図書館の成功と失敗に学ぶ ―

■私は地方の公共施設には共感よりも、反感というよりは無駄を感じることが多いが、武雄市図書館という結果については素直に「イイネ」と共感できる。それは３０数年前に青山に出現したフロムファーストビルとの出会い、それ以上にその建築を巡る解説本の「コンセプトワーク」への感銘に似ている。
■武雄市では市の図書館本館である武雄市図書館・歴史資料館を改修することへのそもそも論としての反対論があった。そしてスピードを優先するがゆえの強引さもあった。
■しかし、本市においては開館100周年を迎えた伝統ある「豊橋市図書館」はそのままとする。さらに、新しい「図書館」を考えて行く時間は少なくとも１年はある。

― 今からつくる、豊橋の「(仮称)まちなか図書館」 ―

駅前大通再開発の公共スペース(現在の名豊ビル、再開発ビル、狭間公園)
■図書館フロアー面積 3000～4000平方メートル。
■同時整備「(仮称)まちなか広場」2000～3000平方メートル。
■再開発されるまちなかに、新しい「図書館的な市民交流スペース」を創造。
■豊橋駅東口の中心市街地活性化公共事業の3本の矢の最後の一本。
- まちなか活性化の3施設が揃うことで、3施設本来の役割を確認し、本来の特性を活かす。
- 先発の「ここにこ図書館」、プラットと結ぶ「知」のトライアングル。
- 中央図書館ではない、サテライト図書館として機能する。

◆ ここにこ ⇒ 子育て、育児、料理、ホーム、家庭医療、教育はじめ、日曜大工、園芸、(中高生)自習機能のサポート図書(学習図書)・・・
◆ プラット ⇒ 演劇、舞台、映画、音楽、ダンス、アート、都市情報・・・

― ところで、豊橋は驚きの図書館充実都市 ―

■豊橋市中央図書館・配本センター(旧図書館／向山)
■新しく開館する「**豊橋市南地域図書館**」
■ネットワーク館(中央図書館・配本センターと共通の貸出券で利用できる施設・・・アイプラザ豊橋、こども未来館など８館)
■市内 74 か所の地区・校区市民館図書館を分館としている。

― 今からつくる公共施設は、地方都市の生き残りの装置 ―

●シティープロモーションとは地域の魅力をつくること。「まちなか図書館」があるから豊橋へ訪れたい、豊橋の中心市街地に住みたいとおもえる施設となりうるか。

― 私がおもう「まちなか図書館」のイメージ ―

●誰もが気軽に立ち寄れる、およそ図書館らしくない、図書館。
●仕事帰りに本を読み、ゆったりとした上質な時が過ごせる、第3の場所。
●商業施設と垣根のない、気が付けは本が溢れている、気の置けないサロン。
●使われることで愛される、また足を運びたくなる、クラブハウス。
●蔵書にとどまらず地域情報を提供してくれる「まちなか図書館コンシェルジュ」。
●ＩＴサービス(電子図書＋ＩＴリファレンス＋デジタル＝新しいコンテンツ)。

東三河の図書館としての交流機能

●東三河8市町村の貴重な資料文献の収集・展示・レファレンス(調べもの、探しもののお手伝い)機能と、知的交流サロンとしての機能。
●東三河8市町村の図書館とのネットワーク(図書館の広域連合)。

― 『図書館の不易流行』と『まちなか図書館』への期待 ―

不易流行其元一也 不易とは「人の心か社会の隆替まで世の中の森羅万象を司る不変の法則、時をこえた真理」。流行とは「時代性や環境条件により時に法則を打破するさまざまな変化」。しかもこの不易と流行の基はひとつ、不易が流行を、流行が不易を動かすとしている。
■知の集積「集めるということ」、知の探求「学術機関」、知の共有「公共(パブリックとコモン)へのサービス」といった図書館の不易はおさえねばならない。
しかし、**図書館の不易**としては中央図書館をはじめとする本市には充実した既存の図書館群がある。(将来的には図書館群のあり方は見直しが必要)
地方都市を持続させるまちづくりにとしての**図書館の流行**がある。
❤背景にはシニア世代のアクティブな知的好奇心を満たす場所づくり。
(参考 宮田昇「図書館に通う」みすず書房)
❤地域密着のテーマで図書を展示し相談会を行う課題解決型図書館。
(参考 猪谷千香「つながる図書館」ちくま新書)
■今更スタバ的ブックカフェ図書館が欲しいわけではない、豊橋のまちなかにふさわしい図書館を待ちわびている。読書といえば、学生時代の夏休み、南禅寺の山門の上で読んだ芥川龍之介の「藪の中」は最高の思い出で、暗くなると進々堂やシアンクレールで本を読んだ。京都は気持ちよく本が読めるまちだ。
■本市のステレオタイプ図書館から脱皮した、人口38万人の豊橋、76万人の東三河に相応しいコンセプトワークに基づく、まちなか図書館という **One and Only(唯一的)の洒落た装置(ツボ)**に期待する。 **おせば命の泉わく☺**

あとがき 高校生の頃、『読書の楽しさ』を教えてくれたY先生と出会った。推薦図書を尋ねに行くとはじめにアランを推薦された。その後、読み終える度にトルストイ、カーネギー、ハイデッカーなどを紹介してくれた。進学も決まり高校卒業をする際の推薦図書はショーペンハウエルの「読書について」、そこには「読書とは他人にものを考えてもらうことである。」と書かれていた。書は自らの血肉とせよとの教えに今も感謝している。

市政報告会のお知らせ

日付 平成 26 年 5 月 8 日(木)
時間 18 時 30 分より
会場 カリオンビル(松葉町二丁目)
是非お気軽にお越しください！

発行
伊藤とくや事務所
豊橋市松葉町 3-68
FAX : 0532-56-5521
TEL : 0532-53-4556
bbito@mx1.tees.ne.jp
携帯:090-3855-9696

平成26年4月1日に自由民主党豊橋市議団を結成しました。私もその一員として活動して参ります。